

## 5 S活動による職場風土改善への効果

### —CSポートフォリオ分析による検討—

○川道美鈴 岩永敦子 中村寿恵 山中真樹子 丸山祐子

医療法人衆和会 長崎腎病院

キーワード 看護師満足度 5 S活動

#### I. はじめに

当院看護部では平成26年度の方針として、職場環境改善を目的に5 S活動を取り入れ、物品配置・配置整理を行った。

CSとは“Customer Satisfaction”の略で顧客満足を意味する。CSポートフォリオ分析は、項目別満足度と総合満足度から、重点改善領域を描出する分析手法とされている。分析により、「重点維持分野」「維持分野」「改善分野」「重点改善分野」を把握することが可能となる。今回この手法を用い看護職員の満足度を調査し、5 S活動における効果を職場風土改善の視点で検討したので報告する。

#### II. 研究方法

研究期間

2014年8月～2015年6月

研究対象

研究期間中継続して在籍勤務していたA病棟・B病棟の看護職員42名

データの収集方法

「活動開始前」と「中間評価時」の2回、留置き法によるアンケート調査を行った。

倫理的配慮

対象者へ研究の目的、データは個人が特定できないようにし本研究以外に使用しないことを口頭で説明した。当院の倫理委員会の承認を得ている。

#### 5. 調査項目

5 S活動によってもたらされる効果を、7つのカテゴリーに分けた。7つのカテゴリーは、①「安全な職場環境」(5項目)、②「物を探す時間の削減」(2項目)、③「スペースの有効活用」(3項目)、④「スタッフの満足度の向上」(1項目)、⑤「管理監督者が指導しやすくなる」(3項目)、⑥「5 Sのスタッフへの浸透率」(2項目)、⑦「活動前後の職場風土の変化」(3項目)とし、順序尺度を用いた回答方法とした。

分析方法

総合評価に影響を及ぼしている要素を明らかにするため、「活動開始前」と「中間評価時」それぞれを、回帰分析によるCSポートフォリオを用いA重点改善項目-スタッフの満足度が低く至急改善が必要な事項、B重点維持項目-スタッフの満足度高く良さをキープする事項、C維持項目-良さをキ

ープする項目、D改善項目-優先順位は低い改善が必要な項目の4象限に分類し比較した。

また、「5 S活動」導入前後の2群間比較ではスチューデントのt検定を使用した。

#### III. 結果

現在活動は進行中ではあるが、中間評価として検討したところ、導入前後の平均点のポイント比較では、ほとんどの項目で有意に改善がみられたが、「どこに何があるか把握している」と「見間違い・取り間違いがある」の項目では平均ポイントは上昇したものの有意差は認められなかった。

CSポートフォリオによる分析では、「安全な職場環境」については、D改善項目評価がC維持項目へと改善がみられた。「物を探す時間」はD改善項目からA重点維持項目へ大きく改善した。また、アンケートでは「物を探す時間」について「殆どない」の回答者数が増え、物探しに費やす時間は全体の10%が6分以上費やしていたが、6分以下へ短縮していた。「スペースの有効活用」は、D改善項目評価がB重点維持項目へと改善がみられた。「管理監督者が指導しやすくなる」についてはn数が少なく統計処理ができなかった。

#### IV. 考察・まとめ

今回、実施したアンケートの単純集計の結果では、5つのカテゴリーで有意に改善し、2つのカテゴリーでも改善傾向にあり、5 S活動に対してはある程度の効果が認められた。また、CSポートフォリオ分析で「物を探す時間の削減」などのカテゴリーでは重点改善分野から期待する水準へ改善したが、「清潔感」、「取り出しやすく片付けやすい」のカテゴリーでは新たにスタッフの満足度が実際の成果を上回った。このことより、5 Sを実施することでスタッフの環境に対する満足度が上昇した可能性が推測された。

5 S活動によってもたらされる効果は、整理整頓されることだけではなく、組織の体質向上つながるなど多くが期待できるとされている。今回の5 S活動への取り組みは、当院における職場風土の改善に有効であったと考える。

#### VI 文献

福丸典芳、(2012年)：KTY&5 S、日総研出版 46-51